

令和5年度 日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2023003

プロジェクト名 花火やミニかまくらを通じて、日大生や校友の心にも「明かり...

プロジェクトの概要

主な目的は「多くの学生や校友を巻き込んで、明るい気持ちにすること」である。10月の学園祭との共同企画の「花火打ち上げ」と「模擬店で出品」に始まり、12月と2月で学生と地域の方々と共に学食の廃油を用いたキャンドル作成、最後に2月の秋田県横手市のかまくらに参加し、地域の方との活発な交流を行い、学生も明るい気持ちになれることを目指した。他にも地域の交流イベントや災害ボランティアにも積極的に参加した。

プロジェクトの結果・成果

まず10月の学園祭の「模擬店」では、郡山名物のクリームボックスと秋田名物のバター餅を作って販売した。クリームボックスの製作には秋田県出身、福島県大熊町のパティシエに協力していただき、苺味には大熊町産の苺ジャムを使った。

次に12月と2月で総合病院との共同開催で「学食の廃油から作るキャンドル」のイベントを行った。周辺の幼稚園や小学校にも呼びかけ、地域の方々が約50名参加した。色付きのキャンドルは持ち帰っていただき、無色のキャンドルは横手でミニかまくらの点灯用に使用した。エコなキャンドルを作成できた達成感とかまくらで活用できるという期待で、メンバーの団結力を実感しながら協力して活動することができた。

2月のかまくら本番、前年度に滞在時間が短く諸活動ができなかった反省を活かし、今年度は日帰りではなく2泊の日程を計画した。工学部、生物資源科学部で合わせて21人が参加した。令和元年度から継続するプロジェクトであるが、地元で就職した方やOBの方にも参加していただき、学部間交流だけでなく、校友と交流することもできた。この計画を遂行するために、秋田県の企業にアピールして、7社から計25万円の寄付を募ることができた。企業の方々と懇親会で交流する機会もあり、若者の働き方について貴重なお話を聴くこともできた。雪まつりとは思えないほどの積雪の少なさとあいにくの天気ではあったが、少ない雪でどう綺麗な景色を作れるか試行錯誤し、現地の地域スタッフと協力しながら作業を体験した。イベントで作成した廃油キャンドルもミニかまくらに活用でき、完成した景色に対して地域の方からも感謝の言葉をいただき、やりがいや達成感を味わうことができた。

活動写真

